

ひ もり なか こみち ひとり おとこ いっとう
ある日、森の中の小道を、一人の男と、一頭の
ある
ロバが歩いていました。

にぐるま ひ
ロバは、荷車を引いていました。

にぐるま どう おお かみさま ぞう
その荷車には、銅でできた、大きな神様の像を
のせていました。

おとこ ぞう まち しんでん とど とちゅう
男とロバは、この像を町の神に届ける途中
だったのです。



しんでん まち つ
やがて、神 殿のある町に着きました。

おとこ まち かいどう ある ちが
男 とロバが町の街 道 を歩いていると、すれ違った
ひとびと む て あ ふかぶか
人 々が、みなロバに向かっ て 手を合 わせたり、深 々と
あたま さ
頭 を下 げたりしてき ました。



1 5

One day, a man and a donkey were walking down a forest path.

The donkey was pulling a carriage.

On that carriage, there was a huge god statue made of copper.

The man and the donkey were on their way to a town's shrine to deliver the statue.



17

They eventually got to the town with the shrine.

While they were walking down the town's streets, everyone who passed by, put their palms together and bowed deeply to the donkey.

